

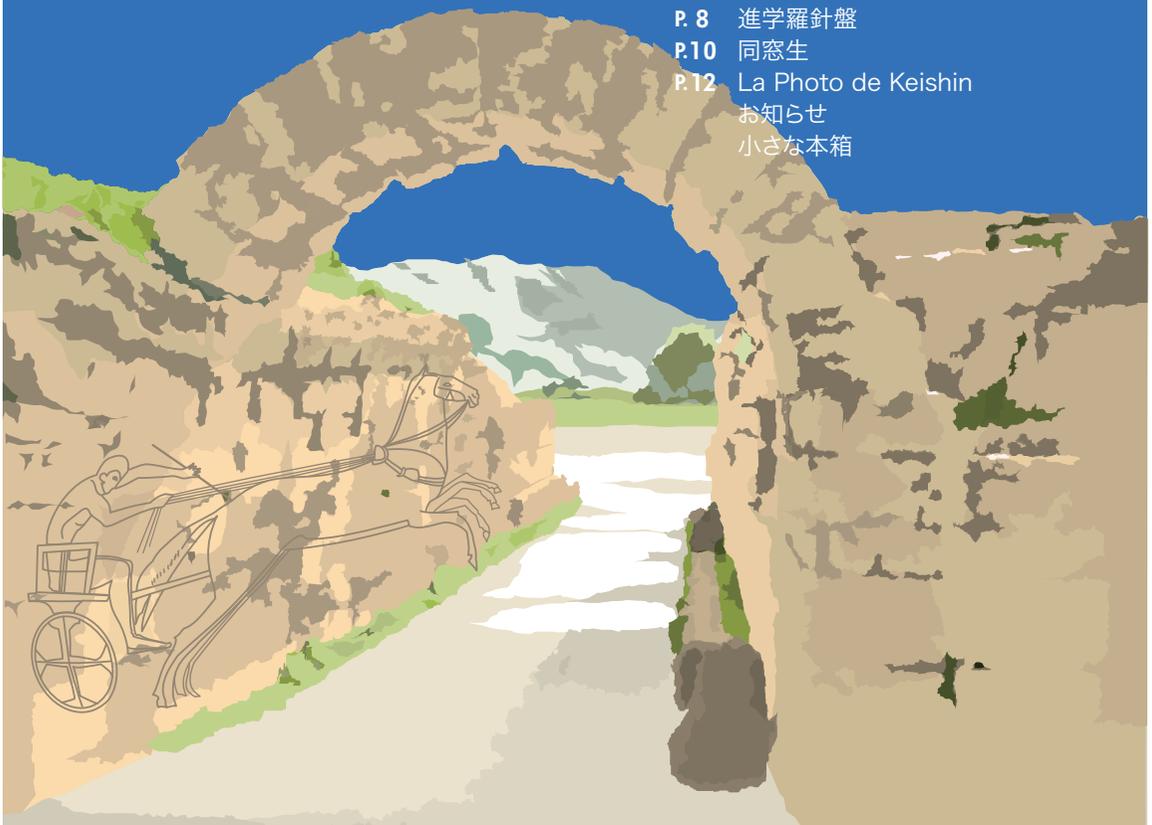
VERIETAS DELECTAT

vol. **7**
2016

いろいろあるからおもしろい

CONTENTS

- P. 2 コラム VERIETAS DELECTAT
「いろいろあるからおもしろい」
- P. 3 慶進生がみた多様な慶進
- P. 4 1st Stage■ 門司港レトロ
- P. 5 2nd Stage■ スポーツフェスティバル
- P. 6 時の人
- P. 7 特集 「多様性」先生だって多様です
- P. 8 進学羅針盤
- P.10 同窓生
- P.12 La Photo de Keishin
お知らせ
小さな本箱



VERITAS DELECTAT

「いろいろあるからおもしろい」

古代ローマの作家キケローの言葉です。岩波書店の『キケロー選集』で、この一節がある「神々の本性について」を訳した山下太郎氏は、次のような解説を付言します。「世界には様々な国や地域があり、それぞれの文化や自然は、見るもの聞くものすべて興味深い」と。この言葉は、先日閉幕したりオデジャネイロオリンピックを思い出させます。様々な国や地域の選手が自分たちの個性を活かして活躍しました。閉会式では、ネイティブアメリカンの文化から始まり、最後は日本のアニメ・ゲームにつながる多様な世界を見せてくれました。だから、我々は心を打たれ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに夢を馳せるのです。

山下氏はこの言葉について次のようにも言っています。「この多様な人間集団の中、自分とはどんな人間なのでしょう。か。——中略——それを知るには他人との対話が鍵となります。」と。表紙絵にある古代オリンピックも、まさに多様な人間集団の対

話の場となったことでしょう。絶えず戦争を繰り返す諸ポリスが、四年に一度開かれるゼウスを祭るこのオリンピックの祭典の時は、戦いを止め、一堂に会しました。そして、自らのポリスの誇りを賭けて戦うとともに、自分たちが同じヘレネスであるというアイデンティティを作り上げたのです。

14期生を迎えようとする慶進も、まさにこの「いろいろあるからおもしろい」というステージに入りました。自らの志を実現するために学力を向上させるのはもちろんですが、それと両輪をなす人間力を鍛えるいろいろな慶進生が多くなりました。各部活動は活況を呈し、校外でも将棋をしたり、トリアスロンをしたり、テニスをしたりいろいろな慶進生が現れています。いろいろな慶進生が創る慶進の世界がおもしろい。そんな「慶進の世界 Le Monde de keishin」をお伝えします。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

2nd Stage

実力充実期

中学3年生

高校1年生

3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

慶進生がみた 多様な慶進

生徒会副会長 12期生

唐津 拓也(中二)



慶進には、いろんな人がいます。とても元気な人、とてもおとなしい人、とても足が速い人など、本当にいろんな人がいます。それぞれのクラスにも部活にも先生にもいろんな個性のな人がいてまさに十人十色です。僕は、慶進にはいろんな人がいてとても楽しくていいなと思っています。それが慶進に入ろうと思った理由の一つでもあります。

僕がまだ小学生のとき、慶進に行くか友達の多い公立に行くか結構悩んでいるとき、僕は慶進の「体験ツアー」や「公開授業」に何回も参加していました。「体験ツアー」の時には、慶進生との交流会がありました。でも、僕は小学生で中学生や高校生と話をすることがあまりなかったので、とても不安で心配でした。だけど、慶進生はとても優しくどんな質問にも答えてくれて、いろんなことを教えてくれたので最初は緊張していません

安ばかりでしたが、最後は普通に話すことができるようになり、だんだん楽しくなってきました。

「公開授業」では、慶進は勉強しかなないので大変だなと思っていたけれど、いろんな授業を見学してみると、先生の教え方は全く違い授業を聞いているととても面白かったです。

それから、慶進は中高一貫で、中学校だけでなく高校も一緒なので、普通なら関わることのない高校生と話をしたり、一緒に部活をすることができそうです。そんな高校生と交流できる行事が一つだけあります。それは「慶進祭」です。僕は生徒会に入っているので高校生と一緒にいろいろ考えたり、準備をしたり、募金活動をし

たりしました。また、僕のクラス展示にもたくさんのが高校生が来てくれました。高校生とはあまり話せないかなと思っけていましたが、話すことができているなことを教えてくれてとても優しくとても楽しかったです。

生徒だけじゃなくて、先生にもいろんな人がいます。歌が上手い先生や戦国武将が好きで先生などたくさんいます。本当に教え方が先生によって違いくらいの授業もとても面白く、先生に質問するといろいろと教えてくれてすごく分かりやすいです。

慶進には、中学生や高校生や先生までいろんな人がいて、たくさんのお話を学ぶことができるとてもいい学校です。

ネパールから慶進へ

南アジアのとある国で二年半ほど生活していたことがありますが。今からもう十年以上も前、二十代後半の頃のことです。いわゆる開発途上の場所だったこともあり、水はあってもお湯は出ないこと、電気はかろうじて通っていても毎日必ず停電すること、最も暑い三ヶ月は毎日気温が40度を超えること、食事は肉なし魚なしの、野菜と米だけの質素なものであること、一日二食であること、などといった生活環境もさることながら、日本に比べれば圧倒的に物が少なく、また手に入りにくい状況だったため、日本人である自分が生活そのものに慣れるまで半年くらいかかりました。はじめの三ヶ月で10キロもやせたほどです。不思議なもので、日本に帰国しても十年近くになりますが、二年半の生活で少なからず変化した価値観は、現在の日常生活に未だに影響を与えています。日本は「欲しいものが欲しいときに、欲しいだけ」すぐに手に入る環境で

す。にもかかわらず、いわゆる「持ち物の量はむしろ劇的に減りました。

予備を用意するとか何かをとっておくといったことはまずしなくなり、必要なものを、必要な時に、必要なだけ「手にするようになりました。人からの贈り物も以前は大切にとっておいたのですが、今は「大切に使う」ようになりました。以前の自分と今の自分、どちらがどうということではなく、本当に必要なものは案外少ないものだ、あれから十年、日本で生活してきてあらためて感じています。

数学科 笹川 剛



▲ネパールで授業をする笹川先生



門司港レトロ

中学校 年生は夏休みに門司港レトロ地区を見学します。事前の学習でテーマを決め、班ごとに電車・バス・フェリーなどを使って門司港への行き方を決め、見学場所の下調べなどをすべて生徒達が行います。二学期末には班別発表会、三学期末には個人発表会を行い、調べ学習の方法やプレゼンテーション能力を身につけます。三年次に行う「修了論文」の第一段階となっています。

大事なのは 自分の考えをもつこと



13期生 黒田 望(中1)

楽しく長い夏休みの中でも、私がとても楽しみにしていた学校行事があります。

それは八月一日にあった「校外地理・歴史学習」です。

この行事は、五・六人のチームを作り協力して目的地「門司港駅」をめざします。門司港駅に行くルートや自由行動のときの行き先は、自分たちであらかじめ決めなくてはなりません。私たちのグループは、門司港駅に行くルートを決めることが難しかったです。一人一人の考えが違い、電車の時間帯や関門トンネル人道を使うかなど意見がバラバラだったからです。それでもグループで何度も話し合った結果、当日はとても楽しい一日を過ごせました。

私がこの行事で学んだ大切なことは「一人一人の考えを持つこと」です。グループ内の一人一人の考えがあったからこそ何度も話し合い、門司港駅まで行くときも自由行動のときも楽しめたのだと思います。

私は、この行事を通して学んだことをこれからの六年間で様々なときに活かそうと思えます。

自分たちであるから わかること



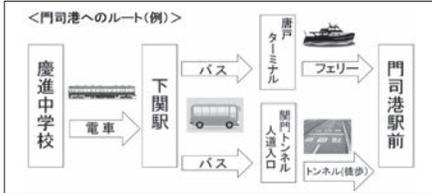
13期生 藤井 祐希(中1)

私の班は、地理・工業班で「九州鉄道記念館」という場所に行きました。

小学生の社会見学などとは違い、班別で行き方から行き先まで自分たちで全て決めます。最初は、バスや電車の時間を合わせたり、行き先や時間の配分

に苦戦しましたが、班で協力し合うことで解決しました。校外学習先でも、時間をちゃんと考え行動するのはとても大変でした。でも、班のメンバー同士で協力することで、とてもよい学習になりました。

この学習で、私はプランを立てたり、時間を配分したりすることの難しさ、また日頃の先生や両親の苦勞を実感しました。そして、今まで経験がないからこそ、班のメンバー同士の協力や気遣いが分かりました。最初から最後まで、自分たちでするからその経験値が得られました。これからこの経験を活かし、様々なことをやりとげていきたいです。



La Classe de Keishin

理科

科学の甲子園

12期生

真鍋 洋二郎(中二)

八月二十七日に「科学の甲子園ジュニア山口県大会」がおこなわれました。僕は酒見君と大木君の三人チームで出場しました。

僕は、初めてこの大会に出場したということもあり、緊張していました。僕たちは「三位以内には入る」という意気込みで参加しました。

会場では、他のチームの人たちがみんな頭が良さそうに見える、不安になりました。しかし、成績発表で優勝だと聞いたときはとても嬉しかったです。

十二月の全国大会には、第二位の周陽中学校チームの三人と共に、六人のチームで出場します。お互いに知らない人とチームになるので、初めは上手くやつていけるか不安です。でも、必ず仲良くなれると思っています！

大会の競技では協力することがとても重要だと思います。県大会では難しい課題もチーム二丸となって取り組むことで、解決することができました。全国大会でも六人でチーム二丸となって課題をこなしたいです。そして、悔いの残らないように全力を出し、入賞をめざしたいです。



スポーツフェスティバル

白組 仲間との絆

スポーツフェスティバルでは、普段あまり交流することのない中学一年生から中学三年生までの全員で協力してひとつのものを作り上げられます。各競技色別で競い合うのはもちろん、ソーラン節で全校生徒一丸となるところもよいところだと思います。

まずは色別です。騎馬戦やリレーでは学年関係なく、お互いを励まし、チームで勝利をめざしました。応援合戦では3年生が中心となって全体の構成を作り、各色がそれぞれの個性を出して、各色への思いを応援にぶつけました。本番でやり終えたときの感動は大きなものです。

次に、ソーラン節です。一年生はまだよく知らないので、保健体育の授業など時間を使って教え合い、慶進生のつながりがより深まりました。これらを通してスポーツフェスティバルは、慶進生の絆を深められる行事だと思っています。

青組 田中 海斗

青組 夏山穂乃香

白組 真宅 花凛

白組 綿屋 拓利

赤組 南 安澄

赤組 山本 晃成

慶進中学校では3学年を縦割りにした3色のグループを作り、全員で参加するスポーツフェスティバルが毎年行われています。今年のスローガンは「決戦だ！仲間と共にいざ参らん！」で3年生が中心となり、工夫を凝らして一生懸命に練習する応援合戦や各種団体競技色別リレーなど多くの種目があります。中でも伝統として全校生徒で踊るソーラン節は毎年力を入れて完成度を高め、見る人に大きな感動を与えます。

青組 慶進の伝統

慶進のスポーツフェスティバルを通して、目に見える伝統と目に見えないけど残って欲しいという二つの伝統を感じました。

応援合戦の内容は毎年生徒で趣向を凝らし、みんなで作り上げていきます。初めは、エールのやり方を今までと変えていこうかと思いましたが、発案者である熱いハートの田中先生は、「このエールは、後から思い出したときにみんなの共通の思い出になるように、慶進の伝統として残して欲しい」とおっしゃいました。だから、エールの内容は同じでしたが、青組のカラーは出せたと思います。慶進の伝統を引き継ぎ、自分達だけのオリジナルの応援を作り上げていく熱い思いも伝統として後輩に伝わっていくことを願っています。

赤組 目標に向けて全力で努力

慶進中学校には様々な行事があります。その中でもスポーツフェスティバルは最も盛り上がる行事の一つです。今回、私は赤組団長として「全体を引っ張っていけるのか」「先輩方のようにできるのか」不安でいっぱいでした。しかし、副団長をはじめ団員みんなの支えや励ましもあり、少しずつ形になっていく応援団に、いつのまにか私が引き込まれていきました。練習を重ねていくうちにクラスや学年の枠を超えて赤組の絆が深まりました。優勝という目標に向かっても深い感動を覚えました。仲間を信じ、全力で思い切り戦う大切さを赤組みんなで共感できました。今回のスポーツフェスティバルは優勝することができ、忘れられない思い出の一つになりました。

時の人

テニスを通して

学んだこと

みなさんは何かスポーツをしていますか？

僕はテニスをしています。最近では錦織圭選手や松岡修造さんが有名です。

僕は小二からテニスをしてきましたが、きつかけは些細なことでした。それが今通っているスクールの広告が目に入り、そこから、祖母・母・自分の三人でテニスを始めました。そして今では数々の全国大会や、国体に出場できるようなりました。それはなぜか？答えは二つあります。一つ目は周りの人の支えのおかげです。教えてくれるコーチやスクールのみんな、毎日の送り迎えや試合に来てくれる家族、応援してくれる友達や先生のおかげです。

二つ目は、人のアドバイスを素直に聞くということです。以前の僕は、何か言われるとふてくされてきました。しかし、何かを言ってくれたのは、僕のためを思っているのだと考えるようになりました。そして、人間のにも一回り成長できました。僕は高校に進級するとき、テニスで県外に行くか悩みました。しかし、僕は慶進に残ろうと思いましたが、なぜかという、僕はいつも文武両道を目指しているという、勉強もテニスも頑張りたいと思いついて、慶進に通いながら週四日でテニスをしています。

最後に、慶進に来てよかったことを三つ話そうと思います。一つ目

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーはそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、10期生 紀村樹くん(高一)、9期生 橋本和樹くん(高一)、8期生 大谷花蓮さん(高三)を紹介します。

は、中高一貫なので、中学三年のときに先取りで勉強ができ、テニスも思いっきりできたということ。二つ目は、先生達が温かいということ。どうです。先生とすれ違うと「試合どうだった？」「テニス頑張れよ！」など声をかけてもらえます。おかげですごくやる気が出ます。そういった優しい慶進のいいところだと思います。三つ目は、勉強ができる環境が整っていることです。僕はテニスはもちろん、勉強もおろそかにしたくなかったので、すごく助かりました。慶進にはいい環境はもちろん、やる気のある先生がたくさんいます。僕のテニスは臨時部のため、引率の先生が必要になったときには、すごく熱心にして下さったり、授業が丁寧だったり、なんといつても慶進の良さは、先生と生徒の関係だと思っています。

10期生 紀村 樹(高一)



アイアンマンをめざして

トライアスロンの始まりは一九七〇年代にアメリカ海軍が水泳・自転車・陸上どの競技が一番過酷か議論できずに、まとめてやろうということから生まれたと言われ、またの名をアイアンマン(超人)レースと呼ばれたりもします。

僕は中学の頃からそれぞれの競技には関わってきたものの、今回が初めてのレースでした。練習に取り組む中で思ったことがあります。それは、三つ全ての競技を一回に行う

アメリカが

教えてくれたこと

私は高校二年生の夏からの一年間を、米ノースカロライナ、大西洋に面した地で過ごした。人種のサラダボールと言われているアメリカ。高校では白人、黒人、アジア系、イスラム系、アジア系の生徒がいて、私も多様な生徒の一員となった。様々な背景や文化を持つ彼らは、私が思いも付かない考え方やアイデア、こだわり、そして自己表現の手段を持つていた。

野に咲く花は、多種多様で美しく、様々な香り・色・形・大きさで私たちを楽しませてくれる。もし、花が人間だけなら本当につまらない。人間にも同じことが言えるのではないだろうか。

様々な花を咲かせる多民族国家アメリカで、私はそんなことを考えた。彼らは、生まれた時から個々の

ことの難しさ、仲間の大切さです。水泳・自転車・陸上どの競技も全て使う「カラダ」が違います。例えば、水泳だけに打ち込んだ翌週にランニングをしたとき、全く足が動かない。なんてこともあり、一日三競技全てを練習することに体力的にもとても苦労しました。

また、近くにクラブチームがあるわけでもないで、練習のメニュー決めなども全て一人で考えているなか、水泳部の友達に応援してくれて、改めて「仲間」がいるということ、とても心強いことだと感じる事ができました。

違いを目と心で体得する。その結果、個性や考え方の違いが当然のこととして自然に受け入れられていく。そして彼らは、そんな自由の国アメリカに誇りを持っていて、日々、学校や家庭で国旗を掲げ愛国心を育む教育が見られた。それは、多民族国家であるがゆえに国家統一のためになされたのかも知れない。

人々と触れ合う度に、未知の発想に触れることができた。私自身、自己表現の方法が豊富になったと感じ、他者の考えに柔軟になった。同時に自分が日本人であることを再認識し、世界の中の日本の立場に自信を持ちたいと思うようになった。

世界に広がり、益々身近になりつつある多様性。自分とは違う容姿をしている人を、自分とは違う宗教を持つ人を、自分とは違う考えを持つ人を受け入れる大きな心を持ちたいと思う。

今回の結果に満足することなく、支えてくれる全ての人への感謝を胸に僕は「アイアンマン」をめざして何事にも全力投球でこれからも頑張ります。

9期生 橋本 和樹(高一)



違いを認め尊重する意識を持つこと。日本人の良い特質を自覚すること、多様性を包み込んでいるアメリカが教えてくれたことである。

8期生 大谷 花蓮(高三)



特集 「多様性」 先生だって多様です

篠田先生は慶進で働かれる前は、社会人として一般企業に勤めていらしたそうですが、どんな仕事をされていたのですか？

篠田 仕事の業種はシステムエンジニアです。主に会社の人が使うシステムを構築する仕事をしています。例えば出動簿です。それを全部システムで管理するとします。「出動」というボタンを押せば「出動したよ」という記録が残ります。それを月末に「この人は何時間働きました」という集計をボタンを押せばファイルが出るような仕組みを作っていました。

「サラリーマンと先生はここが違う」というところがありますか？

篠田 サラリーマンは、どうしても利益が大事なので、その「利益を出す」というところが強い。だから学校は「教育」に主軸をおけるというのは大きな差かなと思います。

利益を追求していくというのは自分の中でどうでしたか？

篠田 最初はかなり戸惑いがありました。が、「お金の為に働いているのではない」という思いはありました。しかし色々考えながら働いている中で思ったのは、「働いてお金がまわらないとみんなが生活できない」と考えれば、あるべき形なのかなってということに落ち着きました。

先生になってから「サラリーマン経験があるからこそ、こういう事できるな」ということはありますか？

篠田 色々なことを客観的に見るのとができてくる気がします。自分の軸だけで見て視野が狭くなるのではなく、少しいろんな角度から物事を

考えられるようになってくるのは、自分が大学を卒業した時点とは違うとは思っています。例えば、生徒が質問にきた時も、問題を解けるというように教えるのではなく、その後その生徒が社会に出て行って、自分で勉強しないといけないタイミングとかもあると思うので、そういう時にちゃんと学べるようにという方向で教えるというような意識を今は心がけています。それが成功につながるかどうかかわからないですが、そのような目線で見ることができていくことは、サラリーマンの経験があったからこそできてくるのかなって気はしています。

社会に出て大事なことはなんですか？

篠田 「上手に聞くこと」と「上手に教えること」と思いました。まずは「上手に聞ける」というのが大切だと思います。だから今はただ解けるだけよりは、きちんと「何が分からない」と言えて、困った時には「困った」と言える状況を作るようにしています。

篠田先生は熊本大学大学院で何を学ばれていましたか？

篠田 みなさんの身の周りにある有機物という物質、炭素と水素でできている物質です。ね、その有機物を薄い膜にしてそれがどうやって電気を流すのかというのを研究していました。

学生生活で「これ頑張ったな」というものはありますか？

篠田 そうですね、私は大学一年生から四年生まで人形劇のサークルに所属していました。子どもたちと人

形劇を観ながら触れ合ったり、話をしたりするなどといったことを四年間ずっと続けていました。

人形劇というのはどういったものですか？

篠田 私たちの人形劇は、プラスチックの柔らかい、ウレタンという、多分安眠杖とかに使われているような素材を使って子どもにもふれ合えるような人形を使ってやっています。人形の大きさは50cmや60cm、70cmくらいですかね。ストーリーは、その年に活動する人たちが、自分たちで一から考え、人形も全部手作りです。全て自分たちで作ると感じています。

どんな話の人形劇をされたのですか？

篠田 私たちの代は、私がストーリーを作ったのですが、妖怪の学校の話です。妖怪の学校で生徒が妖術を練習しているけど二人だけ落ちこぼれがいて、ある時その学校の先生が風邪のウイルスに感染して、その先生の身体の中に入って、妖怪そのばい菌を退治する。そして退治する間にもその落ちこぼれの生徒がどんどん自信を取り戻していき、最終的には自分の自信を取り戻して妖術が使えるようになるというストーリーでした(笑)

その頃から先生になりたかったのですか？

篠田 そうですね。別にサークルとはあまり関係はないですが、教育実習に行くと、高校生の優しさとかひたむきとかに触れて「高校生活っていいな」と思ったのがきっかけでしたね。

篠田 対象は幼稚園児から小学生までで、主に小学校や公民館などでやっています。夏休みなどは小学校を巡回してその小学校に泊まらせてもらい、小学生達と一緒にキャンプファイヤーとか、ちよとしたミニ運動会みたいなものを催したりするなどしていました。

篠田 高校時代にはバスケットボールをやっていたのですが、バスケットボールは高校だったらどこでもできると思うんです。だから大学に入ったら、その大学じゃないとできないようなすごいサークルに入ろうかと思っていました。そんな時に何かよくわからない人形劇というようなサークルがあったので、ちょっと入ってみようかなって思ったのがきっかけです。

では、篠田先生、なぜ先生になると思ったのですか？

篠田 小学生の時から先生に憧れはずっと持っていたというのはあるのですが、そもそも人に物事を教えてその人が分かるようになるっていう場に行かれるというところで、幸せをすごく感じているというのと、あとは山口で働きながら「山口の役に立つことがしたい」というように思っているのが大きいかな。

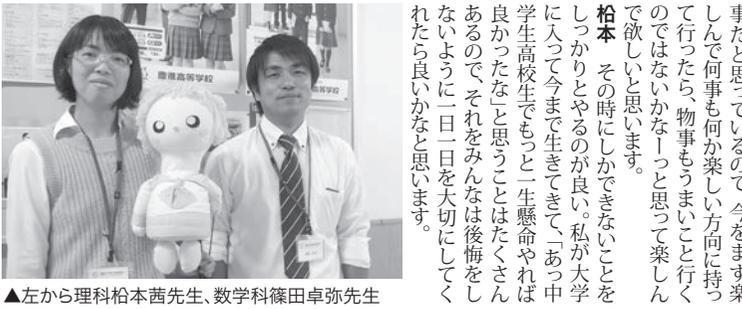
慶進中学校・高等学校に対して今どんなイメージを持っていますか？

篠田 アットホームなイメージがします。みんな柔らかくて何て言うんですかね・・・ホフツとしている(笑) 良いところは、助け合えるっていう環境が整っていると感じます。人と人との繋がりが大事にされている。

篠田 やっぱ生徒達がすごく一生懸命頑張っているところが、ステキだと思います。本当に毎日見ていて職員室にたくさん質問に来たりだとか、本当にそういう姿を見ると自分の中学生だった時、高校生だった時、もうちょっと頑張ればよかったなという風に思ったりします。そして、一緒に働いてくださる先生方も、とても丁寧で優しい方が多くて働きやすいという風に感じています。

篠田 僕は何事も楽しむことが大事だと思っているので、今をまず楽しんで何事も何が楽しい方向に持っていくのはないかなって思っています。

篠田 その時にしかできないことをしっかりとやるのが良い。私が大学に入って今まで生きてきて、「あつち中学生生活でもって一生懸命やれば良かったな」と思うことはたくさんあるのだから、それをみんなは後悔をしないように一日一日を大切にしてください。



▲左から理科 篠田先生、数学科 篠田卓弥先生



進学羅針盤

平成二十七年十二月、高大接続システム改革会議で、現行センター試験に替わる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」について評価すべき能力と記述式問題のイメージ例「たたき台」が提示されました。あくまで記述式問題の出題に当たっての考え方の方針を示すものであり、直接のモデルではないという但し書きが付されていますが、ここから読み取ることができる情報は多く、非常に重要です。現在の中学二年生からは、この新テストに臨むこととなります。今回は、この「たたき台」で提示された国語の問題を二つ紹介しましょう。

問題イメージ〈例3〉 文部科学省HP (高大接続システム改革会議 (第9回) 配布資料) より

(公立図書館に関しその現状と課題の他、若者の自立・社会参画支援を推進する場、家庭教育支援のための場、地域の人たちの対話や交流の場としての試みなど今後の公立図書館の可能性等について記した1,400字程度の新聞記事を読んで答える問題)

問) 今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。

次の1~3の条件に従って書きなさい。

条件1 200字以上、300字以内で書くこと(句読点を含む。)

条件2 解答は2段落構成とすること。

第1段落には、今後の公立図書館が果たすべき役割として、あなたが重要と思うものについて書くこと。その際、文中に示された公立図書館の今後の可能性のうち、今、あなたが重要と考える事項の一つを取り上げ、本文中の言葉を用いて書くこと。

第2段落には、仮にあなたが図書館職員だとした場合、図書館において、第1段落で解答した姿を実現するために、どのような企画を提案したいかを記すこと。

その際、企画の内容に加えて企画の効果についても記すこと。

条件3 本文中から引用した言葉にはかぎ括弧(「 」)を付けること。

〈解答例〉

今後の公立図書館は、「地域の人たちの対話や交流の場」としての機能を広げ、子供から大人まで幅広い世代に相互理解と学びの場を提供する役割を担うべきだと考える。

このため、高校生を対象として、幼児への読み聞かせの方法を学ぶ講座を企画したい。講座では、絵本を読む際の声の大きさや間の取り方、スピードなど、子供に興味を持って話を聞いてもらうためのコツについて、高校生が図書館の司書やボランティアから学ぶとともに、実際に幼児への読み聞かせを体験する。このことにより、講座に参加する幅広い世代の住民の交流が深まるとともに、高校生が、子供の発達について家庭科で学んだことを実体験を通じて深める効果も期待できる。(295字)

試験は、文字通り「試す」ことが目的だ。その人がどのような能力を備えているかが試されるのである。

これまでは、あることについて知っている、書いてあることが理解できる、つまり知識の有無や情報の理解度を試されてきた。しかし、新テストで求められるのは、既存の学力に加えてその知識・情報を活用できる能力を試すものへとバージョンアップしていると言えるだろう。ここで重要なのは、「既存の学力に加えて」という点だ。知識や情報が必要なくなったわけではない。そもそも知識がなかったり、理解が不十分であったりすれば「活用」などでははしない。したがって、新たに求められる能力が加わった、という見方が適切だろう。

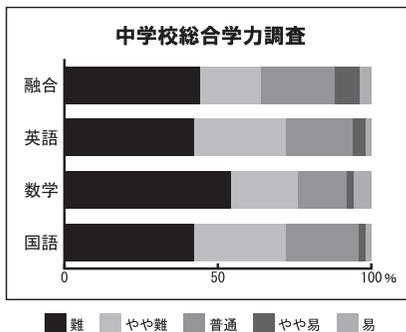
ここでの「活用」とは、文章や図表から収集した情報を基に、「物事を推測する」「論拠を明確にしながら思考する」「問題解決のための方法や計画をまとめ表現すること」である。

「地域の人たちの対話や交流」を「図書館」においてどのような方法で実現するか、そのアイデアをテスト中「から考えて説得力のある文章を書くことは難しい。知識(「図書館」「地域交流」「読み聞かせ」「世代間問題」「司書」「子供の発達」)を事前に蓄積しておく、それを適切にその場で「活用」することができてはじめて他者を説得できる表現となる。

普段から得た知識・情報を自分の生きる現実社会の中で活用する訓練をしてきたかどうかを試される。つまり、現実社会で実際に必要とされる能力が試されるのだ。

本校では、新学力観に基づく「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に対応した中学総合学力調査(ヘネッセ)を、中学一年・二年の希望者を対象に実施した。

この模試は、教科学習における思考力・判断力・表現力の測定を行うことを目的とする。実際に受験した生徒の感想を見てみよう。



今まで受験した学力推移調査と比べてどうでしたか

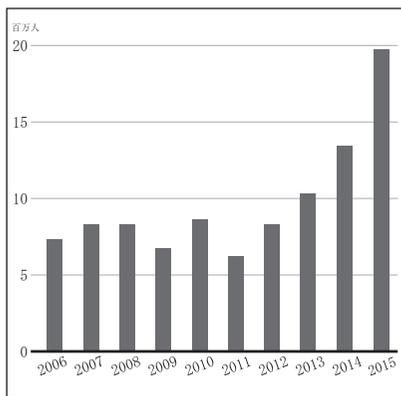
- ・自分の考えを記述しないといけないため、基礎知識だけでなく応用も十分にやっておかないと解けないものが多かった
- ・記述が多く、国語は時間が足りなかった
- ・数学は計算問題がなく、文章問題がほとんどで苦戦した
- ・身近にあるようなものを扱った問題が多いように感じた

Challenge

政府は、『観光先進国』への新たな国づくりに向けて、平成28年3月30日、『明日の日本を支える観光ビジョン構想会議』において、新たな観光ビジョンを策定した。

安倍内閣の発足から3年、戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワークの拡大などの改革に取り組んだ。この間、訪日外国人旅行者数は約(ア)倍となり、その消費額も3倍以上となった。

日本は、自然・文化・気候・食という観光振興に必要な4つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであり、これらの豊富な観光資源を真に開花させることにより、裾野の広い観光を一億総活躍の場とすることが可能である。「観光ビジョン」においては、「観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」、「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」、「①「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」の3つの視点を柱とし、10の改革を取りまとめ、2030年には、訪日外国人旅行者数を2015年の約3倍となる(イ)人とするなど新たな目標とした。



	都市部	地方部	空港	その他
目的地までの公共交通の経路情報の入手	18%	5%	67%	19%
公共交通の利用方法(乗り方)、利用料金	18%	13%	8%	31%
公共交通の乗り場情報の入手	11%	7%	15%	10%
公共交通の乗車券手配	8%	4%	4%	5%
観光情報(見所、文化体験等)の入手	4%	4%	13%	5%
観光チケット(入場券等)の入手	3%	2%	2%	0%
飲食店の予約	13%	11%	0%	19%
飲食店の入手	8%	4%	0%	10%
宿泊施設情報の入手	1%	4%	4%	2%
宿泊施設の予約	1%	5%	4%	2%
ツアー・旅行商品情報の入手	2%	0%	0%	2%
ツアー・旅行商品の予約	1%	0%	0%	2%
割引チケット・フリー切符の情報の入手	9%	15%	2%	5%
割引チケット・フリー切符の入手	5%	7%	2%	2%
無料公衆無線LAN環境	38%	50%	6%	43%
両替・クレジットカード利用	11%	36%	2%	14%
外国語の通じる病院情報の入手	2%	3%	0%	0%
地図、パンフレット(多言語)が少ない	9%	12%	2%	17%
地図、パンフレットが分かりにくい	4%	5%	2%	17%
観光案内所の数が少ない	6%	1%	2%	0%
観光案内所の場所が分かりにくい	6%	0%	2%	2%
ピクトグラム・サインが少ない	5%	1%	4%	5%
ピクトグラム・サインが分かりにくい	5%	4%	2%	5%
コミュニケーション	25%	21%	10%	40%
その他	3%	13%	8%	5%

資料2 外国人旅行者が旅行中に困ったこと

- 問1 本文中の(ア)、(イ)に適する数を答えなさい。(必要であれば漢数字を使ってもよい)
- 問2 日本に旅行した外国人が、旅行中に感じたことについて、以下のように述べている。その内容として最も不適切だと考えられるものを下記の英文より選びなさい。

- ア. I wanted to go to the hotel, but I didn't know how to get there from the airport.
- イ. It was so difficult to get information about restaurants in the airport.
- ウ. I couldn't get access to the free Internet even in cities.
- エ. I didn't have much trouble getting information about a tour in the countryside.

- 問3 下線部①「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」するために、どのような対策をする必要があると考えられるか。次の2つの条件に従って書きなさい。

- 条件1 200字以上、300字以内で書くこと(句読点を含む)。
- 条件2 解答は2段落構成とすること。

第1段落には、下線部①のような環境にするために、あなたが重要だと考えるものを本文、資料を参考に書くこと。

第2段落には、あなたの住む地域で、第1段落で解答したことを実現するために、どのような取り組み、対策をすれば良いか記すこと。その際、なぜその取り組み、対策が効果的なのか、理由も記すこと。

参考資料：観光庁HP

普段の学校での勉強、行事、また自分で取り組んでいることなどで、役に立ったと思うことは何ですか

- ・ スピーチコンテスト・ポスターセッション
- ・ デイバート・部活動・多読(英語)

今後、中学総合学力調査の対策として、どのようなことをやっていこうと思えますか

- ・ 学校での勉強や行事などへの積極的な参加
- ・ 本や新聞、ニュースを見て知識を増やしたい
- ・ 表現力をつけること
- ・ 日ごろから何かについてもっと考え、思考力をみがく

感想を自由に記入してください

- ・ 普段学んでいたことが役に立ったのはうれしかった
- ・ 本をたくさん読もうと思った
- ・ こんなのがセンター試験の代わりになると思うと恐いなと思った
- ・ 問題の意味が良く分からないものがあつたので、読解力をつけたい

アンケート結果から、中学総合学力調査は今までの学力推移調査に比べ、約七割の生徒が難しいと感じていたことが分かった。加えて、記述問題が多く時間が足りなかったという意見が多かった。また、身近な題材を扱った問題では自分の考えを記述する問いがあり、教科以外の行事や課外活動を通じた色んな視点で物事を捉え考えることが必要になると感じた生徒もいた。中学総合学力調査に向けて日頃の勉強や日常の様々な場面で、基礎知識だけでなくそれを活用するための読解力・思考力・表現力などの総合的な力をしっかりと身につけることが必要である。

上記に進学指導部で例題を作成した。ぜひチャレンジして、解答は進学指導部藤野先生まで持ってきてください。

同窓生



国語科
西山 智彦
先生

田中 奏子
慶應義塾大学
法学部法律学科

山田 竜
山口大学
医学部医学科

藤村 奏美
早稲田大学
文学部

数学科
早川 武
先生

平成27年度卒業

中高一貫コース7期生

中高一貫コース7期生が、今春慶進中学校・高等学校を卒業しました。

7期生の彼らと共に担任として学校生活をスタートしたのは、彼らが中学三年生の時。それから高校卒業までの四年間は、あつという間であったような気がします。そんな四年間の中で7期生の一人ひとり大きく成長していききました。その中でもとりわけ彼らを成長させてくれたのは、慶進高校が一体となって運営する生徒会活動を通じてだったように思います。中高一貫コースという枠から一歩踏み出して、アドバンスコース、グローバルコースの仲間とともに行事を運営するなかで、きつと彼らの価値観は揺らいだことでしょうか。そのなかで、自分自身ができることは何か、どうすれば多様な個性を持つ一〇〇〇人もの仲間をまとめることができるのか、いろいろと考え前進するなかで、大きく成長していったのだと思います。

そんな彼らと久しぶりに会った時、感じたこと。それは、「変わっていないな」ということでした。しかし、それは「同じ」ということとは違います。大学生になり、より大きな世界に踏み出した彼らは、たくさんの仲間や多くの先輩たちに出会っていました。その出会いを通じて自分自身が変わってしまうのではなく、その出会いを吸収して、自分自身が一回りも二回りも大きくなっているような感じがしました。そんなことができるのはきつと慶進での六年間を通じて、多様な価値観と出会い、自分自身を磨き、自分のスタイルを創りあげてきたからこそだと思います。

もしも、慶進という世界が彼らにとって、社会という大きな世界へ歩み出すための大切な場所であったのなら、担任として彼らと一緒に時間を過ごせたことをとても幸せに思います。頑張れ7期生!!

担任 西山 智彦

大学生になって3カ月が経ちました。大学生のいいところはありますか？

山田 大学生になって自由な時間が増えて、学校帰りに遊びに行くということがすごく増えたので、自由な時間を大学の友だちとたくさん過ごせるところがいいところだと思って思います。

中学・高校とは違いますか？

山田 学校が終わるのが五時頃で、そこから塾に行ったりしていたので、みんなで「どっか行こうぜ」ということはなかったです。だから、大学生になってそういうところがいい。

藤村さんはどうですか？

藤村 何より一番大きいのは、東京に出たこと。人の数が全然違うなと思いました。高校の頃はクラスメイト二・三〇人しか話す機会がなかったけど、私の通っている大学は、学生数が四万人近くいるので、いろんな人と交流する機会が増えて、今までとはだいぶ変わったなと思いました。

田中さんはどうですか？

田中 私も藤村さんと一緒に、東京に出て、まず家族と離れてひとり暮らしを始めたことが一番大きかったです。また、大学の授業は高校と違って、自分で選択するというものが多いので、自分で履修を組んだり、なんでも一人でやるっていうことがけっこう増えて、成長できたかなって思います。

藤村さんと田中さんは東京でひとり暮らしを始めて驚いたことや「あーそうなんだ」ということなど何かありましたか？

田中 例えば、夜遅く帰ってきて、洗濯をしなければいけないと思いついて洗濯していると、なんでこんなことしてるんだろと落ち込みました。ああッライ・まだあれもこれもしなくてはいけません。と多々思うことがあります。

藤村さんはうなずいていますがどうしてですか？

藤村 生きていくだけでお金がかかる。何もしてなくてもお腹がすくから食費はかかるとひとり暮らしの友達と話しています。

では、今回のテーマ「多様性」ですが、慶進の六年間を振り返った中でこういって場面人、事柄で多様性を感じたということをお話してください。

山田 7期生の中だけでも個性がありおもしろいと思っていました。特に自分が生徒会長だったので、学校全体を見て多様性を感じました。行事に取り組むうえで、アドバンスコース・グローバルコースの人と話す、意見がたくさんあり多様性があると思いました。

中高一貫コースの特徴は何ですか？

山田 中高一貫コースは六年間同じでお互いを理解していて絆が強いと感じました。

中高一貫コースは絆が強い。ではアドバンス・グローバルコースは山田君から見てどうですか？

山田 アドバンスコースは、様々な中学校出身の人がいて、それぞれおもしろい話をもっていると感じましたし、グローバルコースは、部活をしていて活発な印象です。

いるんな人と行事を作るのは楽しかったですか？

山田 すごく楽しかったです。では藤村さんにとって中高一貫コースの特徴は？

藤村 個性とは違うかも知れませんが、中高一貫コースはまだ小学生みたいな中学一年生から、大学生というか、大人に近い考え方になっている高校三年生までいます。

ですが、生徒会などで「中学生も高校生も楽しむにはどうしたらいいのか？」という事をお互い知恵を持ち寄って考えてはいました。そういうのを考えることは大事だし、考えられる機会も今後あまりないんじゃないかと思っています。

確かに、中一と高三って違いますよね。では、今振り返ってみて中一と高三、中高一貫六年生が何かみんなで一緒にやるものもあってあった方がいいと思いますか？

藤村 あつたら楽しいと思う。私が覚えている中学生と高校生が一緒になった機会は、大学合格報告会です。もちろん勉強

面で交流できることは中高一貫のメリットでもあります。私としては勉強以外のことで、中学一年生から高校三年生までが交流できる機会がもつとあつたらいいと思います。

田中さんにとって中高一貫コースの特徴は？

田中 中高一貫の特徴というか、特性としてはやっぱり行事が多いことが大きいんじゃないかと思います。例えば「ほんなもん体験」山口県も田舎ですが、他県の田舎などに行つて、いろんな農業体験などできるのは、とてもいい経験になると思います。またそれは真反対で、シガポールやオーストラリアなど、結構海外に行く回数が多いと思います。大学の友達と「修学旅行ってどこ行くの？」とか、そういう話をした時に、「中三や高二でオーストラリア・シンガポール・マレーシアとか行つたよ」と言うのが結構驚かれました。みんな中学高校時代に修学旅行で海外に行く機会というのはあんまりないみたいなので、そこは慶進中高一貫コースのすごくいいところ。

海外への視野というか国際交流ができていいなと思いました。では、西山先生はどうですか？三人が巣立ち三ヶ月たつてみてどんな風に思いますか？

西山 三人に共通して、変わらないなど。キャンパスライフの話も聞いて、中高時代から自分を持つていて、そのまま大学生

になって、周りの環境が変わっても、それと合わせて自分を広げてはいつているけど、スタイルとしては変わらないっていう感じはすごくします。

では最後に、後輩にメッセージをお願いします。

山田 中高の六年間というのはすごく短いと思います。大学の一年生になってすごく懐かしさも感じました。中学高校をもう一回過ごしたいなという気持ちもすごくあるのので、今しかない時間を大切にいつぱい楽しんで、勉強も頑張つて過ごして欲しいなと思います。

藤村 中学高校のうちは、悩み事がいっぱいあると思います。私の場合「やりたいことがないな」とずっと思っていて、それは大学に進んだ今も変わらないのですが、私のように「やりたいことがないな」って思う人はやっぱりいるんなことをやるべきだと思つて、中学高校のうち山口でしかできないこともしつぱいあると思うので、いろんなことに挑戦して欲しいと思います。

田中 大学に行つて、たまに山口に帰ってきたときに、同級生に会うと、やっぱり同級生、7期生っていいな、大好きだなって感じる人が多いので、今一緒にいる学年の同期を大事にして、六年間を過ごして欲しいと思います。

※現在は「よかばい体験」という名称になっています。

| お | 知 | ら | せ |

La photo de Keishin

立志



■平成29年度 入試日程

A日程入学試験願書受付

12月15日(木)～17日(土) 正午まで

A日程入学試験

1月8日(日)

B日程入学試験願書受付

1月31日(火)～2月1日(水) 17時まで

B日程入学試験

2月4日(土)

ご不明な点については、慶進中学校・高等学校にご連絡ください。

TEL 0836-34-1111

「立志」それは、慶進中学校・高等学校で過ごす六年間において、自分自身が立てた道しるべ。「挑戦」「全力」「根性」「協力」「感謝」「団結」…。一年生の四月、徳地の宿泊研修で作った学年のフラッグには、一人ひとりの生徒が胸に抱いた多様な志が刻まれています。その志を仲間でも共有し、それぞれが志した道を歩むために、互いに刺激しあい、支えあう姿がこの学び舎にはあります。



第7回 小さな本箱

数学科 林 智史先生のおすすめ

竹中半兵衛と黒田官兵衛

秀吉に天下を取らせた二人の軍師

嶋津 忠義

黒田官兵衛は、私が好きな歴史上の人物の一人である。彼に纏わるエピソードで次のようなものがある。

関ヶ原の戦いで西軍が東軍に敗れた後のこと。久留米城城代が「東軍の諸将がこの久留米に押し寄せて来よう。そのときはわが妻子を殺し、全員、城を枕に潔く討死しろ。ただし敵の中に黒田官兵衛の旗を見たら、官兵衛を頼って降伏するがよい。官兵衛なら、城兵の命を助けてくれるであろう」と部下に言った、という話だ。官兵衛は戦でできるだけ人死がでないように配慮していた。これまでの戦でもたびたび自ら丸腰で、戦相手の城を訪れ、降伏するように説得を行っていた。久留米城城代の話は、そのような働きを十分に理解してのものだ。私はこの話を知り、官兵衛という人物にさらに惚れ込んだ。

さて、私はこのコラムを書くにあたって、著者の嶋津氏について調べてみた。その中で著者がこの物語を書くに至った経緯を次のように語っている。

「日本人の志というものがどういうものなのかを、今の人に知ってもらいたいと思ったんです。日本人はもともと清潔感を持っている人種なんです。その清潔感をもつ日本人というのは、法律で決めなくても、これ以上やってはダメなんじゃないかという感覚を、本能的に持っている民族だと私は思っています」(インタビュウより抜粋)

冒頭で語ったように、官兵衛は命の重さを理解して戦を行っている。黒田家を守るために宇都宮氏を謀殺したり、高松城の攻略で水攻めという惨たらしい手段を使ったりするなど、数多くの失敗もしているが、その都度、自分の行いは正しかったのか、他に良い手はなかったのだろうか、自問自答している。

成果を追い求めるなかで、手段を選ばずに物事を成すのではなく、「清潔感」を持って行動をする官兵衛の姿に物語を通して、みなさんも思いを馳せてほしい。